

# 動物埴輪の世界

Thematic Exhibition  
The World of Animal *Haniwa*  
(Terracotta Tomb Figurines)

2012年7月3日 火

▶10月28日 日

東京国立博物館

平成館考古展示室

Tuesday, July 3-

Sunday, October 28, 2012

Tokyo National Museum, Heiseikan  
Japanese Archaeology Gallery



小さな輪にした紐が首に巻かれています。

**鵜**を潜らせてアユなどの魚を捕る漁法を鵜飼といいます。今日では長良川の鵜飼が有名ですが、日本各地や中国で古くから行なわれていました。7世紀に編纂された中国の『隋書』に、日本の鵜飼について記されており、小さな輪を鳥にかけて魚を捕ると書かれていることから、現在の鵜飼漁法と同じであったことがわかります。鵜の埴輪は、すでに5世紀頃には鵜飼があったことを教えてくれます。



参考図版 長良川鵜飼(部分)  
Cormorant Fishing on Nagara River  
高橋由一筆 明治24年(1891)  
鵜匠が鵜につないだ紐をあやつって漁をしています。



**16 埴輪 鵜**  
Cormorant *Haniwa*  
高54.1cm  
古墳時代・5世紀  
大阪府茨木市  
太田茶臼山古墳出土  
宮内庁蔵



**17 埴輪 馬**  
Horse *Haniwa*  
高83.0cm  
古墳時代・6世紀  
群馬県大泉町出土 J-21154

**馬**は弥生時代までの日本列島にはおらず、5世紀頃から飼育がはじまります。現在のポニーくらいの小さな馬でした。飼育には専門的な知識と技術が必要で、朝鮮半島から渡来した人々がその役割を担ったと考えられます。馬の埴輪には、さまざまな飾りをつけた飾り馬と、何も飾りをつけない裸馬があります。その姿から、飾り馬は所有者の権勢を示し、裸馬は耕作や運搬など人間の労働を助けていたと考えられています。



**18 埴輪 馬**  
Horse *Haniwa*  
高23.7cm  
古墳時代・5世紀  
大阪府堺市 伝仁徳陵古墳出土  
宮内庁蔵



**19 埴輪 馬**  
Horse *Haniwa*  
長75.0cm  
古墳時代・5世紀  
大阪府堺市 伝仁徳陵古墳出土  
宮内庁蔵



## 埴輪の猿

背中に剥がれた跡があり、子猿を背負っていたと考えられます。振り向いて、あたりをうかがうような仕草をしています。

参考図版 ◎埴輪 猿  
Monkey *Haniwa*  
高27.3cm  
古墳時代・6世紀  
茨城県行方市 伝大日塚古墳出土



**1 埴輪 水鳥**  
Aquatic Bird *Haniwa*  
高61.8cm  
古墳時代・5世紀  
大阪府羽曳野市 伝応神陵古墳出土  
J-6480



**2 ◎埴輪 馬**  
Horse *Haniwa*  
高87.2cm  
古墳時代・6世紀  
埼玉県熊谷市上中条日向島出土  
J-838

Animals depicted as *haniwa* (terracotta tomb figurines) present a wide variety of types, such as cockerels, aquatic birds, hawks, horses, dogs, wild boars, deer, cattle, monkeys, flying squirrels, and fish. However, these are only a small portion of the diversity of animals that inhabited Japan at the time the *haniwa* were made. People of the Kofun period (ca. 3rd century – ca. 7th century) chose particular species as subjects of *haniwa*, presumably with a specific intention.

From the second half of the 5th century onward, *haniwa* were often arranged on *kofun* burial mounds to represent daily scenes, with animal- and human-shaped *haniwa* placed to face each other or to stand in line. By studying the placements and combinations along with the characteristics of the individual *haniwa*, we can see several typical patterns in the use of animal *haniwa*. Through introducing animal *haniwa* and comparing them with small figures of humans and animals on decorated *sue* stoneware, this exhibition looks into the stories and meanings possessed by animal *haniwa*.

古墳時代(3世紀半ば～7世紀)、有力者のお墓である古墳に立て並べるために、家や道具、動物、人物などさまざまな形の焼き物が作られました。これを埴輪といいます。埴輪に表現された動物は、鶏・水鳥・鷹・馬・犬・猪・鹿・牛・猿・ムササビ・魚など多様ですが、それらは当時日本列島にいた動物のほんの一部にすぎません。古墳時代の人々は特定の動物を選んで埴輪にしていたと考えられます。どのような意図があったのでしょうか。

動物埴輪や人物埴輪は、向きあったり、列になったり、さまざまな場面を表現するように並べられています。そうした配置のあり方や個々の埴輪の特徴を分析すると、動物埴輪に託された物語が浮かび上がってきます。この特集陳列では動物埴輪と、人物・動物など小像がついた装飾付須恵器を展示し、動物埴輪の意味をわかりやすく紹介いたします。

## 〈動物埴輪〉と〈人と動物の歴史〉を知るための本

- ・千賀 久『はにわの動物園』保育社 1994年
- ・亀井正道『人物・動物はにわ』日本の美術No.346 至文堂 1995年
- ・高橋克壽『歴史発掘9 埴輪の世紀』講談社 1996年
- ・西本豊弘編『人と動物の日本史1 動物の考古学』吉川弘文館 2008年
- ・若狭 徹『もっと知りたい はにわの世界』東京美術 2009年

図版には、指定(◎は重要文化財)、作品名称、寸法、時代・年代、出土地、所蔵(東京国立博物館所蔵の場合は当館所蔵番号や寄贈者)を付した。

2012年7月3日発行

執 筆： 山田俊輔、古谷毅(東京国立博物館)  
翻 訳： 東京国立博物館国際交流室  
撮 影： 藤瀬雄輔(東京国立博物館)、堀野直茂、村松徹  
協 力： 宮内庁書陵部陵墓調査室、金子浩昌  
制 作： DNP アートコミュニケーションズ  
編集・発行： 東京国立博物館  
©2012 東京国立博物館 Tokyo National Museum



**鶏**の埴輪は古墳時代前期の半ば頃(4世紀)に出現する、最初の動物埴輪です。被葬者を埋葬した墳頂部から出土することから、死者をよみがえらせる期待を込めて作られたという説もあります。鶏は弥生時代(紀元前4世紀～3世紀)に農耕とともに朝鮮半島から日本へ伝わったとされています。『古事記』『日本書紀』には、アマテラスオオミカミが隠れた「天の石屋戸」を開こうと「常世の長鳴鳥(鶏)」を集めて鳴かせたという物語が書かれています。食用ではなく、鳴き声によって夜明けを告げる鳥として利用されたと考えられます。



**3 埴輪 鶏**  
Cockerel *Haniwa*  
高53.8cm 古墳時代・6世紀  
栃木県真岡市 鶏塚古墳出土  
J-22899  
(橋本庄三郎氏ほか3名寄贈)



**4 埴輪 鶏**  
Cockerel *Haniwa*  
高16.2cm 古墳時代・5世紀  
群馬県伊勢崎市 赤堀茶臼山古墳出土  
J-21148

**犬**の埴輪は古墳時代中期半ばに出現します。墳丘のテラス面などに猪や狩りをする人物の埴輪とともに配置され、猟犬を使った猪狩りの場面が表わされています。今でも犬は人間の最良のパートナーですが、人と犬のかかわりは縄文時代早期(紀元前7000～4000年)から確認できます。埋葬された犬の多くが男性の墓の近くにあることから、男の仕事である狩猟の手伝いをしていたのでしょう。装飾付須恵器にも狩猟の場面で活躍する犬の姿がみられます。



**5 埴輪 水鳥**  
Aquatic Bird *Haniwa*  
高44.5cm 古墳時代・5世紀  
大阪府羽曳野市 伝応神陵古墳  
出土 J-6483

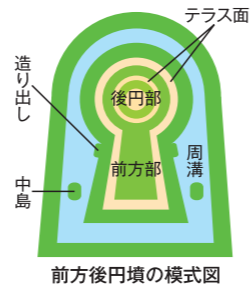


**6 埴輪 水鳥**  
Aquatic Bird *Haniwa*  
高41.0cm 古墳時代・5世紀  
大阪府羽曳野市 伝応神陵古墳  
出土 J-6488



**7 埴輪 水鳥**  
Aquatic Bird *Haniwa*  
高84.2cm 古墳時代・6世紀  
埼玉県行田市 埼玉出土 個人蔵

**水鳥**の埴輪は古墳時代中期(5世紀)初頭に出現します。ハクチョウやガン、カモなど種類はいろいろで、古墳の周溝内にある中島などに数羽が群れるように配置される傾向があります。水辺に飛来する渡り鳥の群像を表わしたのでしょう。どこからか飛んできて、空高く飛び去っていく渡り鳥は靈魂を運ぶ鳥として意識されていたと考えられます。



狩りを終えて  
ホッとしたのか、  
舌を出しています。

**8 埴輪 犬**  
Dog *Haniwa*  
高47.1cm 古墳時代・6世紀  
群馬県伊勢崎市 境上武士出土  
J-20711

**鹿**の埴輪は馬や猪の埴輪に比べると、出土する数はそれほど多くありません。動物埴輪の多くがまっすぐ前を向いているのに対して、鹿は後ろを振り返ったり、あたりを見回したりするような姿で表現されているものが多いという特徴があります。古墳時代の人々は鹿の用心深い性質をよく観察していたのでしょう。



**9 埴輪 鹿**  
Deer *Haniwa*  
高28.5cm 古墳時代・5世紀  
大阪府堺市 伝仁徳陵古墳出土  
宮内庁蔵

**10 埴輪 鹿**  
Deer *Haniwa*  
高62.3cm 古墳時代・6世紀  
茨城県つくば市 下横塚字塚原出土  
J-20795

背中には刺さった矢が表現され、元気がない顔をしているようにみえます。



須恵器に表わされた動物たち



猪に人が飛び乗っています。止めの刺すところでしょうか。2頭の犬が手伝いをしています。



馬に乗った人物(頭が欠けている)が矢を刺すところでしょうか。2頭の犬が手伝いをしています。矢は左にいる鹿の背中に命中しています。



**12 須恵器**  
装飾付脚付壺  
Footed Jar with Diminutives  
*Sue* Stoneware  
高42.3cm 古墳時代・6世紀  
兵庫県たつの市御津町 山王山古墳出土 J-6534

**11 須恵器** 子持装飾付脚付壺(部分)  
Footed Jar with Ornaments and Diminutives  
*Sue* Stoneware  
高30.1cm 古墳時代・6世紀 岡山県赤松市可真上出土 J-2

**猪**の埴輪は古墳時代中期半ばに出現します。その多くは背中に矢が刺さっていて、毛を逆立てて興奮状態にあるように表現されています。狩りで追い詰められた様子を表わしていると考えられます。『古事記』『日本書紀』には、神が猪や鹿に化身する物語があります。大地の神を象徴する動物を狩ることは、権力の強さを示す行為でもあったと考えられます。

背中には、刺さった矢が矢印のような形で表現されています。



**14 埴輪 猪**  
Wild Boar *Haniwa*  
長63.2cm 古墳時代・6世紀  
伝千葉県我孫子市出土  
J-9836



**13 埴輪 猪**  
Wild Boar *Haniwa*  
高50.2cm 古墳時代・6世紀  
群馬県伊勢崎市 境上武士出土  
J-36889



**15 埴輪 猪**  
Wild Boar *Haniwa*  
高25.0cm 古墳時代・5世紀  
大阪府堺市(旧堺市船松町)出土  
J-21727  
(伊藤権次氏・橋喜一郎氏寄贈)